

October 9, 2020

【前日の為替概況】ドル円、小幅続伸 重要イベント通過で値動き鈍い

8日のニューヨーク外国為替市場でドル円は小幅続伸。終値は106.03円と前営業日NY終値(105.98円)と比べて5銭程度のドル高水準だった。アジア時間に実施された米副大統領候補のテレビ討論会など重要イベントを通過したことで、欧米市場では値動きが鈍った。今日の安値は105.93円、高値は106.10円で1日の値幅は17銭程度と小さかった。

なお、ペロシ米下院議長(米民主党)が記者会見で「包括的支援策なしに航空支援法案のみの通過はない」と発言すると、ダウ平均は一時マイナス圏に沈む場面もあったが、ペロシ氏が一部通信社とのインタビューで「包括的支援策への取り組みが保証されれば、議会通過は可能」との認識を示すとダウ平均はプラス圏を回復した。為替相場への影響は見られなかった。

ユーロドルは小反落。終値は1.1759ドルと前営業日NY終値(1.1763ドル)と比べて0.0004ドル程度のユーロ安水準だった。欧州中央銀行(ECB)理事会議事要旨(9月10日分)で「強いユーロは金融緩和の効果を減じる」「ユーロ高に対する不透明感を避けるべき」などと、ユーロ高への懸念が表明されたことを受け全般ユーロ売りが先行。「ECB理事会議事要旨の内容からECBが12月に追加緩和策を実施する可能性がある」との見方も広がり、22時過ぎに一時1.1733ドルと日通し安値を付けた。デギンドスECB副総裁が「新型コロナウイルス感染拡大でユーロ圏のインフレ期待が低下した場合、一段の措置を講じる必要がある」との見解を示したこともユーロ売りを誘った。

ただ、前日の安値1.1725ドルが目先サポートとして働く買い戻しが入り、5時過ぎには1.1762ドル付近まで下げ幅を縮めた。

ユーロ円はほぼ横ばい。終値は124.68円と前営業日NY終値(124.66円)と比べて2銭程度のユーロ高水準。ECB理事会議事要旨で追加刺激策導入の用意が改めて強調されたことを受けて、ユーロ売りが先行。22時過ぎに一時124.37円と日通し安値を付けた。ただ、売りが一巡するとユーロドルの下げ渋りにつれた円売り・ユーロ買いが出て124.70円付近まで下値を切り上げた。

トルコリラは軟調だった。同国周辺の地政学リスクの高まりやロシア製地对空ミサイルを巡る米国との関係悪化、外貨準備高枯渇への警戒感などネガティブな材料が目立つなか、この日もリラを売る動きが続いた。リラは対ドルで一時7.9468リラ、対円で13.32円と過去最安値を付けた。

【本日の東京為替見通し】米政局は混迷深める、週末を含めリスク要因多く動きにくい

本日のドル円も昨日同様に方向感のない動きとなるか。ドル買いもドル売りも米政局の動向次第になっている。ペロシ米下院議長は包括支援策のない航空支援法案などの部分合意を拒否したが、部分合意をしてしまうと民主党支持層が望む支援策が通過せず、手柄も大統領だけのものになるためこの回答は想定内だろう。そのような状況下でトランプ米大統領は昨日の副大統領討論会に登壇したハリス候補について「共産主義者」「モンスター」と発言し、民主党への対決姿勢を弱めることがなく、このまま支援策自体が進まないリスクが高まりそうだ。

ペロシ下院議長は大統領について、科学者が自らの体を実験台に使った内容の有名映画でもある「オルタード・ステイツ(日常的な意識状態以外の意識状態のこと)」と評し、現在の政権運営能力を疑っていることも、支援策の進行が停滞する理由に上げられる。

また、米国に近付いているハリケーンデルタ(現時点でカテゴリー3)が大統領選の接戦州となるテキサス東部やルイジアナ州に近づく可能性が出ている。大統領としては支援策などを打ち出すだろうが、民主党の基盤のカリフォルニア州での大規模火災には支援が消極的姿勢なことで、大統領の行動も注目される。特にカリフォルニア州はハリス副大統領候補とペロシ下院議長の地盤でもあるため、大統領の興味がある州だけへの支援などが顕著になる場合は、上記の支援法案などの進行にも差し障ることになりそうだ。

上記のようなリスク増加要因があるものの、トランプ米大統領はどのような手を使っても株価上昇のセンチメントを作ろうとしていることで、リスクオンにも傾きやすいため、相場は一方向に動きにくいだろう。

ドル円以外の通貨も米政権次第の動き次第になるだろうが、引き続きポンドの値動きには要警戒となる。欧州連合(EU)は10月末やそれ以後の交渉を望んでいる。しかし、ジョンソン英首相が交渉の大枠を決める期限は10月15日としていることで、その交渉期限を英首相が守ることになるとすでに1週間を切っ

ている。英国ではウイルス感染第2波により首相の支持率が急降下していることもあり、トランプ米大統領同様に英首相も支持率回復のためにEUを仮想敵国とみなし、交渉打ち切りを本格的に進める可能性などもある。

なお、本日のアジア時間では本邦から8月家計調査、8月毎月勤労統計なども発表されるが、市場が動意づく指標は9月Caixin中国サービス部門購買担当者景気指数だろう。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<海外>

- 09:30 ◎ 豪準備銀行（RBA）、半期金融安定報告
- 10:45 ◎ 9月Caixin中国サービス部門購買担当者景気指数（PMI、予想：54.3）
- 15:00 ◎ 9月ノルウェー消費者物価指数（CPI、予想：前月比なし／前年比2.0%）
- 15:00 ☆ 8月英国内総生産（GDP、予想：前月比4.6%）
- 15:00 ◇ 8月英商品貿易収支／英貿易収支（予想：90.00億ポンドの赤字／0億ポンドの黒字）
- 15:00 ◎ 8月英鉱工業生産指数（予想：前月比2.5%／前年比▲4.6%）
 - ◎ 製造業生産高（予想：前月比3.0%）
- 15:15 ☆ インド中銀、金融政策決定会合（予想：4.00%で据え置き）
- 15:45 ◇ 8月仏鉱工業生産指数（予想：前月比1.7%）
- 21:00 ◎ 9月ブラジルIBGE消費者物価指数（IPCA、予想：前月比0.54%）
- 21:30 ☆ 9月カナダ雇用統計（予想：新規雇用者数変化15.66万人／失業率9.7%）
- 22:00 ◎ パーキン米リッチモンド連銀総裁、講演
- 23:00 ◇ 8月米卸売売上高（予想：前月比2.0%）
- 23:00 ◇ 8月米卸売在庫（予想：前月比0.5%）
- 23:30 ◎ ホールデン英中銀金融政策委員会（MPC）委員、講演
- 韓国（ハンゲルの日）、休場

12日

<国内>

- 08:50 ◇ 9月企業物価指数
- 08:50 ◎ 8月機械受注

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

8日 07:20 エバンス米シカゴ連銀総裁

「さらなる資産買い入れの余地はあるが、今は必要性を感じない」
「春までに労働市場が回復する良い考えがある」
「財政刺激策のタイミングは重要であり、遅れは経済を傷つける」

8日 07:26 メドウズ米大統領首席補佐官

「トランプ米大統領は議会指導者と刺激策について話した」
「マコネル院内総務は航空支援の個別法案を検討する用意」

8日 07:49 ペロン米下院議長

「ムニューシン米財務長官から電話があり、明日航空会社支援策について話し合う」

9日 00:28

「包括的支援策なしに航空支援法案のみの通過はない」
「政権側が交渉の場に戻ることを望む」
「支援規模についてムニューシン米財務長官と合意できると信じる」

8日 09:13 NZ 準備銀行(RBNZ)当局者

「最近の金融政策はさらなる利下げに向けて動いている」

8日 09:29 RBNZ チーフ・エコノミスト Yuong Ha 氏

「低金利は効果的」
「刺激策に積極的であるほうが良い」
「やらなすぎて遅すぎるよりも、やりすぎて早すぎるほうが良い」

8日 09:32 ホークスビーRBNZ 総裁補佐

「インフレは今後2-3年は目標をはるかに下回ると見込む」

8日 09:58 黒田日銀総裁

「わが国の景気は持ち直しつつある」
「当面、新型コロナウイルス感染症の影響を注視し、必要があれば、躊躇なく追加的な金融緩和措置を講じる」
「政策金利については、現在の長短金利の水準、または、それを下回る水準で推移することを想定」

8日 10:10 ハリス米民主党副大統領候補

「米政権の新型コロナ対策は歴代政権で最大の失敗」
「新型コロナウイルスを米政権は隠ぺいした」
「トランプ米大統領の減税措置を撤廃し、増税そしてインフラ事業を進める」
「米国民に投資するとバイデン氏は言っている」

8日 10:34 ペンス米副大統領

「バイデン氏の増税措置は驚くべきこと。それは経済を台無しにする」
「アメリカの雇用は失われる。そして中国に降伏することになる」

8日 15:48 ベイリー英中銀(BOE)総裁

「新型コロナウイルス第2波が第1波のような経済的な悪影響を及ぼすとは思っていない」
「景気見通しのリスクは下方方向」
「英国と欧州連合(EU)との通商合意の締結を望む」
「英国経済は、EU離脱により困難に直面する」
「BOEは、新型コロナウイルス第2波、第3波に対して、あらゆる措置を講じる」

8日 19:23 デギンドス欧州中央銀行(ECB)副総裁

「ユーロ相場は、金融政策に間接的に影響を及ぼすが、レッドラインはない」
「新型コロナウイルス感染拡大でユーロ圏のインフレ期待が低下した場合、一段の措置を講じる必要がある」

8日 19:32 ジョーダン SNB(スイス国立銀行)総裁

「スイスフランへの需要が弱まった場合、流動性供給を減らすことができる」

8日 20:38 ECB 理事会議事要旨(9月10日分)

「7月以来、ユーロの上昇が顕著」
「強いユーロは、金融緩和の効果を減じる」
「ユーロ高に対する不透明感を避けるべき」
「金融緩和策の継続が適切」
「景気回復は対称的。製造業部門は堅調だが、サービス部門が低調」
「目先のインフレ期待は低迷する見込み」
「インフレ率は、ECBの目標を下回ったままで低迷」
「新型コロナウイルスの感染拡大が不確実性を増幅している」

8日 21:10 トランプ米大統領
「委員会による第2回米大統領候補者討論会をリモートで行うとの発表は受け入れ難い」
「討論会は対面形式で行いたい」

8日 21:59 バルニエ EU 首席交渉官
「15日の欧州連合(EU)首脳会議までに、英国との通商交渉が合意に達するとは思わない」

8日 22:21 マックレム・カナダ銀行(BOC)総裁
「金融政策手段を拡大させるかは新しい問題の程度次第」
「マイナス金利に対する議論は積極的にされていない」
「マイナス金利の可能性がないということではない」

8日 22:31 ジョージ米カンザスティ連銀総裁
「新しいインフレの枠組みは2%を超える物価上昇に対する許容度」
「量的緩和のガイダンスを示すことは重要」
「見通しはリスクがあることを警告」

8日 22:44 メルケル独首相
「できるならば、22年から均衡財政に戻るべき」

8日 23:21 メキシコ中銀金融政策議事録
「一部スタッフはインフレのリスクバランスが不確実性のままと指摘」
「大多数のスタッフが景気回復は困難で長期化し、不確実性の影響を受けると指摘」
「ここまでの経済持ち直しは外部セクターにより推進された」
「国営石会社のペメックスの状況について、多くのスタッフが懸念を表明」

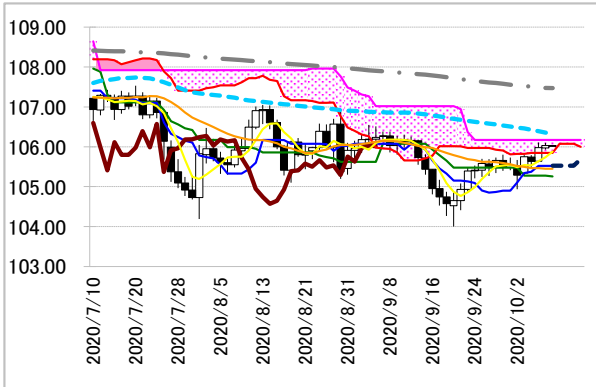
9日 00:12 ロシア外務省
※ポーランドが露・天然ガス企業ガスプロムに罰金を科すと発表したことについて
「ポーランドの決定は欧州のエネルギー安全保障を脅かす」

9日 02:12 ローゼングレム米ボストン連銀総裁
「現在は財政支援策がはるかに効果的」
「財政政策は厳しいダメージを受けたところに的確に支援できる」
「給与保証プログラムを延長することがとても必要とされている」

9日 03:04 カプラン米ダラス連銀総裁
「労働市場を支援するために追加の財政出動が必要」
「FRBは財政政策に代わる手段を持ち合わせていない」

※時間は日本時間

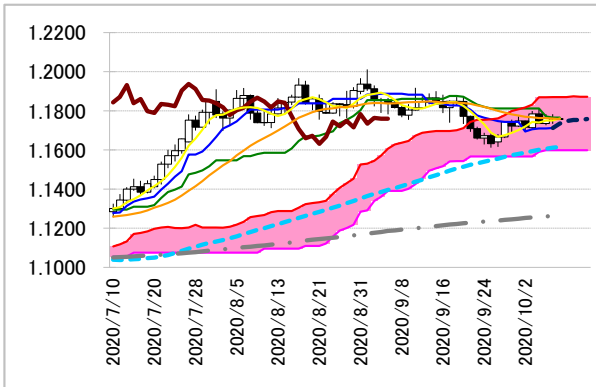
〔日足一目均衡表分析〕



<ドル円＝薄くなる雲を上抜く展開を見込む>

小陽線引け。一目均衡表・雲の中で動きを鈍らせている。横ばいのままなら、週明けに 106.08 円へ上昇する雲の下限を下回ることになる。サポートの雲を割り込み、いったん下押すことも考えておくべき。しかし、上昇傾向の一目・転換線が下落幅の拡大を抑えそうな状態は継続。反発して、雲が薄くなる部分の上抜けを狙う展開を見込む。

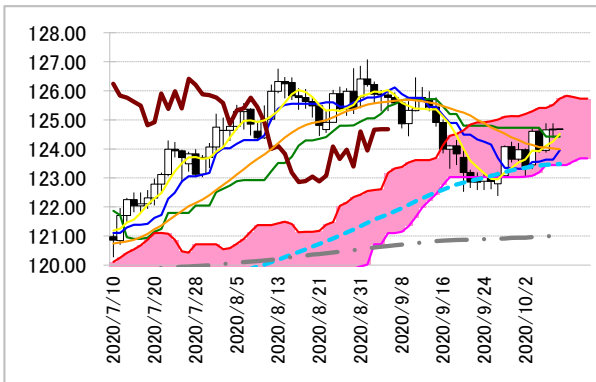
レジスタンス 2 106.95(8/28 高値)
レジスタンス 1 106.55(9/3 高値)
前日終値 106.03
サポート 1 105.53(日足一目均衡表・転換線)



<ユーロドル＝基準線を一時上回る>

極小陰線引け。これまで推移してきた一目均衡表・基準線と転換線に挟まれたレンジの上限となる基準線 1.1765 ドルを上回る場面もあった。基準線以下へ押し戻されて NY を引けたが、基準線へ近づく上昇が予想される転換線（現在 1.1735 ドル）前後では、引き続き底堅さを示すとみる。収束する両線に挟まれたレンジを上放れるとの見方を維持する。

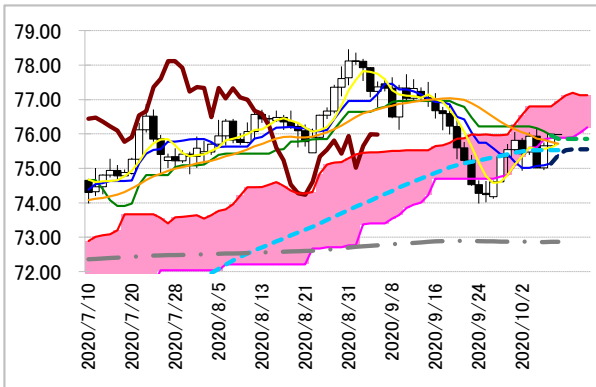
レジスタンス 1 1.1808(10/6 高値)
前日終値 1.1759
サポート 1 1.1709(ピボット・サポート 2)



<ユーロ円＝基準線を割り込んだところで底堅さ示す>

下影極小陽線引け。一時 124.37 円へ下押したが、一目均衡表・基準線 124.42 円を割り込んだ同水準から持ち直して NY を引けた。基準線は、しばらく横ばいの後に水準を切り下げる可能性が残されており、サポートになり続けるか不確かな部分もある。しかし、124.51 円前後へ上昇した 5 日移動平均線を下回ったところで底堅さを示すとも考えられ、大きく崩れる展開は取りあえず回避できそうだ。

レジスタンス 1 125.28(9/1-28 下落幅の 61.8%戻し)
前日終値 124.68
サポート 1 124.13(ピボット・サポート 2)



<豪ドル円＝雲の下限付近で底堅い>

小陽線引け。収束へ向かう見込みの一目均衡表・転換線-基準線レンジを上抜けつつある。基準線 75.86 円を超えた水準の動きにやや重さも感じられる。だが、現在 75.89 円に位置して上昇傾向の一目・雲の下限前後で底堅さを示すと考えられ、明確なレンジ上抜けが視野に入っている。

レジスタンス 1 76.40(9/21 高値)
前日終値 75.99
サポート 1 75.53(90 日移動平均線)

